

授業科目名	プレゼミⅡ	必修	開講年次	1	単位数	2
科目区分	専門科目					
サブタイトル	判例研究の方法について	担当者	柳沢 眞実子			
講義概要	<p>【概要】法学部の学生として、判例が読めるというのは当然のことです。学年が上がるにつれ、判例に触れる機会もあるかと思いますが、まず判例とは何かを知る必要があります。</p> <p>そこでこの演習では、判例の探し方から始まり、読み方、そして、その研究の仕方について学ぶ事を目的としています。</p> <p>【到達目標】</p> <p>判例の大筋である「事実の概要」と「判旨」をまとめ、他の人にわかりやすく発表できるようにすることを目標としています。</p>					
履修条件	一ゼミ員として、教員及び他のゼミ員と豊かなコミュニケーションを取れる者。					
教科書・参考書	<p>【教科書】指定しません</p> <p>【参考書】『判例とその読み方』中野次雄（有斐閣、2009年）3150円</p>					
授業内容	<p>基本は発表です。</p> <p>最初の何回かは、判例とは何かを講義しますが、その後からは自分で図書館に行って、判例を収集し、読み、他人が理解できるようにまとめたものを発表します。</p> <p>この時、独りよがりな発表ではなく、他人が理解できるまで説明してもらいます。ですから、まずは自分がその判例をよく理解しなければなりませんし、やったけどわからなかった、では済まされないことは言うまでもありません。</p> <p>当然毎回の出席及び発表は必須ですから、事前連絡なく無断欠席を3回以上した者に対して、いかなる理由があっても単位は出しません。</p>					
評価方法	15回の演習の中で3回以上、報告してもらいます。この報告内容の如何によって評価します。					
評価基準	3回の報告を通して、ゼミ員全員が理解、納得できるようなものであり、かつレジュメの完成度が高かった場合にA評価、おおよその判例の流れが理解でき、レジュメも整っている場合にはB評価、判例研究の方法が理解できたと判断できる場合にはC評価、報告が2回以下であったり、事前連絡なく報告を欠席した場合にはD評価とします。					
その他	特になし					